

スキーオリエンテーリング世界選手権大会ロング競技 2008年3月5日 北海道留寿都村



大迫力の男子ロング競技のスタート。スキーオリエンテーリング世界選手権の中では最もスペクタクルなシーンだ。世界選手権ロング種目はワンマンリレー方式で競われ、スタートは全員一斉に行われる。世界ランキング上位の者がスタート位置で前に並んでいる。

厳しいコースを克服し、ロシアの新旧メンバーが底力を見せた。日本勢は酒井佳子が快走を見せた。

2009年3月5日 北海道留寿都村
スキーオリエンテーリング世界選手権
ロング競技

男子ロング結果

| | | | |
|----|-----------------------|-----|---------|
| 1 | Andrey Lamov | RUS | 1:26:31 |
| 2 | Eduard Khrennikov | RUS | 1:26:40 |
| 3 | Olli-Markus Taivainen | FIN | 1:27:16 |
| 4 | Staffan Tunis | FIN | 1:28:10 |
| 5 | Teemu Kõngäs | FIN | 1:28:19 |
| 6 | Peter Arnesson | SWE | 1:30:24 |
| 26 | 堀江守弘 | 日本 | 1:42:24 |
| 37 | 田中陽希 | 日本 | 1:54:26 |
| 38 | 高橋善徳 | 日本 | 1:54:28 |
| 46 | 山田敦史 | 日本 | 2:24:01 |

女子ロング結果

| | | | |
|----|----------------------|-----|---------|
| 1 | Anastasia Kravchenko | RUS | 1:07:45 |
| 2 | Barbora Chudíková | CZE | 1:08:32 |
| 3 | Helene Söderlund | SWE | 1:08:39 |
| 4 | Marttiina Joensuu | FIN | 1:08:58 |
| 5 | Helena Randáková | CZE | 1:09:40 |
| 6 | Tatiana Vlasova | RUS | 1:09:45 |
| 22 | 酒井佳子 | 日本 | 1:24:13 |
| 31 | 高橋美和 | 日本 | 1:54:47 |

酒井佳子・堀江守弘が快走

酒井佳子がロング種目で快走した。この日は22位。自身が過去に記録した世界最高順位には届かないものの、今回の世界選手権期間を通じて日本人最高順位を記録した。

酒井とよきライバル関係にあるアメリカのアレキサンドラにも快勝。多くの選手から祝福を受けたようだ。



女子一斉スタートで飛び出す酒井佳子
今回、開催国枠でレッドグループ入り
(シード権獲得)を果たした。

堀江守弘は26位。前回の世界選手権ロング種目の29位から僅かだが順位をあげてきた。トップとの差もじわりと縮まりつつある。

好調の酒井佳子、堀江守弘以外の日本選手の結果は厳しいものとなった。

クロカンスキー出身で、現在もアドベンチャーレーサーとして売り出し中の田中陽希はポテンシャルが高く、ロン

グでの好成績を期待されたが成績は振るわなかった。田中陽希は高橋善徳と同時にフィニッシュすることになる。

ロング一本にかけて世界選手権に臨んだ山田敦史もレース終盤に体力が切れ苦しいレースとなった。



マップ交換後、第二ループへと向かう堀江。レース中の男子選手は会場を2回通る。観戦していると、レースの流れは手に取るように判る。

日本・地元の利を活かせず

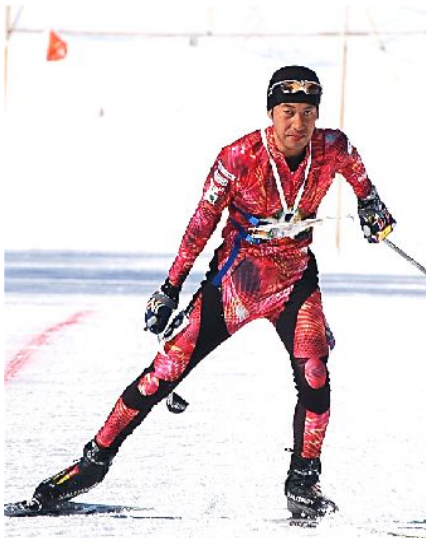
日本チームに感想を求めると、開口一番「斬新なエリアが使われていた」。

今回の世界選手権が開催されたルスツリゾート南側のテレインは、日本国内のスキー競技会では今までも何度か利用され、過去の地図もある。このテレインは南側に行くほど標高が高くなっており、その中腹に農道が通っている。この農道とルスツリゾートホテルとの間の比較的平坦な場所がスキーオリエンテーリングに適しており、今までのスキーオリエンテーリングの国内大会はほぼこの範囲で開催されていた。

日本選手団の中では、今度の世界選手権でもこの範囲しか使わないだろうと予想していた。

しかし、現実とは違った。世界選手権実行委員会では、急峻な山岳部分にもコースを求め、この急峻な山岳部分をロングコースのメインに使用した。

日本チームでは、さすがにそんな急斜面がコースに組み込まれるとは考えなかったようだ。この先入概念により、せっかくの地元開催にも関わらず地の利を最大限に活かすことはできなかったようだ。



ロング一本にかけた日本男子の山田敦史。世界選手権のコースは厳しかった。



地図交換に向かう日本の田中陽希。多くの声援が飛ぶ。会場を通るこの部分で給水や用具の交換を行うことができる。滑らなくなってきた板を交換する選手も多数。



左：2位 エドワード・ヘレニコフ（ロシア） / 中央：優勝 アンドレイ・ラモフ（ロシア）
右：3位 オリマルクス・タイバイネン（フィンランド）

この急峻な場所をコースに組み入れるためには、熟練したスノーモービル運転者によるモービルトラック作りが必要となる。この作業はかなり大変で、今までの国内大会では到底できない。だが今回は世界選手権だ。フィンランドから派遣されたフィールドワークの助っ人たちによる連日のトラック整備により、この急峻な場所が素晴らしい競技エリアに変貌したのだった。



女子2位のバルボラ（チェコ）。激しいレースを終え、フィニッシュレーンに飛び込むとバタバタと倒れこむ選手が続出。

男女ともロシアが優勝

スキーオリエンテーリングの最高峰大会である世界選手権。その中でも最も注目されるロング種目で男女ともロシアが優勝を飾った。

男子のアンドレイ・ラモフはこれで2冠。まるでアンドレイのための世界選手権である。男子2位は同じくロシアのエドワード。前回のモスクワ大会では金メダルを全部持っていった男だ。この新旧ロシア看板選手のワンツーフイニッシュ後、二人は抱き合って喜んでいた。ロシアは昔から強いし、これからは強くありつづけるだろう。

女子は優勝こそ逃したものの、チェコの選手が2名も入賞した。これは快挙と言っていいだろう。表彰式ではチェコ選手団の笑顔が終始絶えなかった。



女子ロングでウィニングランを飾るアナスタシア・クラフチェンコ（ロシア）
（木村佳司）